

学びと育ちをつなぐ

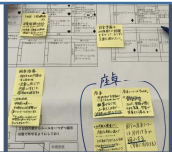
令和4年1月
高知県教育委員会発行

令和元年度・令和2年度の2年間、保幼小連携・接続推進支援事業に取り組んだモデル地域（田野町・越知町・黒潮町）では、今年度もフォローアップ事業として継続した取組を行っています。昨年はコロナ禍においても、各モデル地域において工夫された実践が見られました。第5号では、モデル地域の合同研修会や交流活動等の様子をお伝えします。

東部モデル地域：田野町



スタートカリキュラムの見直し



小学校教職員による
保育参観



幼小合同研修会
(ZOOMによる講話)

保幼小交流活動での
アイスブレイク



児童と幼児がペアで昔遊び

中部モデル地域：越知町

保幼小合同研修会



田野町では、幼小合同研修会を通して園と小学校の教職員がスタートカリキュラムや5歳児後半の年間指導計画の見直し・振り返りを行いました。夏の合同研修では、東部教育事務所や幼保支援課の指導主事とZOOMでやり取りをする等、コロナ禍でもできる形の研修を工夫していました。

また、園内研修に小学校の教職員が参加し、協議を行うことで、年長児の子ども姿から学びや育ちを共有することができました。



越知町では、これまで保幼小の合同研修を実施していましたが、今年度は中学校の教職員も保育参観を行い、年長児の育ちを見取りました。保幼小合同研修会では、12年間の子どもの育ちを見通した連携・接続の在り方についてさらに学びを深めました。

第2回交流活動では、幼児と児童のアイスブレイクを取り入れたり、ペアを作って昔遊びを楽しんだりする等、これまでの交流活動を踏まえ、互恵性のある交流活動に向けた工夫を行っていました。



西部モデル地域：黒潮町

交流活動の振り返りの様子



保小接続期実践プラン



交流活動記念写真

黒潮町では、昨年度、佐賀保育所・佐賀小学校の実践を基に作成した「黒潮町保小接続期実践プラン」を黒潮町の保育所と小学校に配付し、取組を地域全体に広げています。

管理職や担当が変わっても、スタートカリキュラムや交流活動が子ども達の実態に応じたものになるよう、年間計画を基に保育者が小学校の授業を参観したり、交流活動前後には保育所と小学校合同の打ち合わせ・振り返り等が行われたりする等、継続した取組が行われています。

